

2027年3月期 第1四半期 決算短信補足資料



2026/8/6

株式会社ニッスイ

© Nissui All Rights Reserved.

決算ハイライト

▶ 2027年3月期 第1四半期実績:

- ・ 売上高、営業利益は第1四半期として過去最高となり、好調な滑り出し。
- ・ 水産事業、ファインケミカル事業は販売拡大により増益、食品事業は価格改定などを進めるも、原料高の影響などにより減益。

売上高
2,572 億円
前年同期比+14.1%

営業利益
124 億円
前年同期比+20.9%

▶ 2027年3月期 通期業績予想の修正: 売上高を上方修正、利益計画は維持。

売上高
10,000 億円
期初計画比+2.0%

営業利益
425 億円
変更なし

※本資料に記載の計数は、表示単位未満を切り捨てて表示

※増減額は千円単位未満を切り捨てて算出しており、増減率は四捨五入により表示

© Nissui All Rights Reserved.

2

第1四半期は、売上高が前年同期比14.1%増の2,572億円、営業利益が20.9%増の124億円となり、いずれも第1四半期として過去最高となりました。水産事業とファインケミカル事業が増益となった一方、食品事業は原料価格上昇などの影響により減益となりました。連結全体では、好調なスタートとなっています。

通期業績予想は、為替前提の見直しや海外事業の販売好調を踏まえ、売上高を200億円引き上げ、1兆円へ上方修正しました。一方、利益については、原材料・物流・エネルギーコストの上昇や南米養殖の収益改善遅れを織り込み、期初計画を据え置いています。



TABLE OF

CONTENTS

01

2027年3月期 第1四半期 決算概況 P 4～15

02

今後の見通し・取り組み P16～25

03

参考資料 P26～35

2027年3月期 第1四半期 決算概況



2027年3月期 第1四半期 サマリー

売上高、各段階利益において二桁成長を実現。期初計画に対しても、概ね想定通りに進捗。

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減	増減率(%)	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	計画進捗率 (%)
売上高	2,254 億円	2,572 億円	317 億円	14.1	9,800 億円	26.3
営業利益	102 億円	124 億円	21 億円	20.9	425 億円	29.3
経常利益	102 億円	116 億円	14 億円	13.7	430 億円	27.1
親会社株主に 帰属する四半 期純利益	65 億円	74 億円	9 億円	14.3	290 億円	25.7
為替: 米ドル(USD)	151.21 円	156.45 円			150.00 円	

© Nissui All Rights Reserved.

5

売上高は前年同期比317億円増の2,572億円、営業利益は21億円増の124億円となりました。経常利益は116億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は74億円となり、各段階利益で二桁成長となっています。

期初計画に対する進捗率は、営業利益29.3%、経常利益27.1%、四半期純利益25.7%と、概ね想定通りです。

第1四半期としては過去最高となりましたが、社内計画に対しては想定内の進捗であり、現時点で通期利益計画は変更していません。

2027年3月期 第1四半期 セグメント別概況

水産事業、ファインケミカル事業は販売拡大などにより増収・増益。
食品事業は価格改定を進めるも、原料高などの影響を受け減益。

(単位:億円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前年同期比 増減	増減率 (%)	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	計画進捗率 (%)	<売上高為替影響額> 合計 +約98億円 水産 +約48億円 食品 +約49億円
売上高	2,254	2,572	317	14.1	9,800	26.3	
水産事業	864	1,076	212	24.6	4,074	26.4	
食品事業	1,287	1,382	95	7.4	5,206	26.5	
ファインケミカル事業	31	38	7	24.4	174	22.2	
物流事業	40	42	1	3.4	177	23.8	
その他	31	33	1	3.6	169	19.6	
営業利益	102	124	21	20.9	425	29.3	
水産事業	31	54	22	72.6	216	25.2	
食品事業	88	84	▲3	▲4.1	278	30.4	
ファインケミカル事業	0	5	5	2,248.5	18	28.3	
物流事業	5	5	▲0	▲6.9	26	20.1	
その他	0	1	1	222.7	1	116.8	
全社経費	▲23	▲26	▲3	15.3	▲115	23.1	
経常利益	102	116	14	13.7	430	27.1	
親会社株主に帰属する四半期純利益	65	74	9	14.3	290	25.7	

© Nissui All Rights Reserved.

6

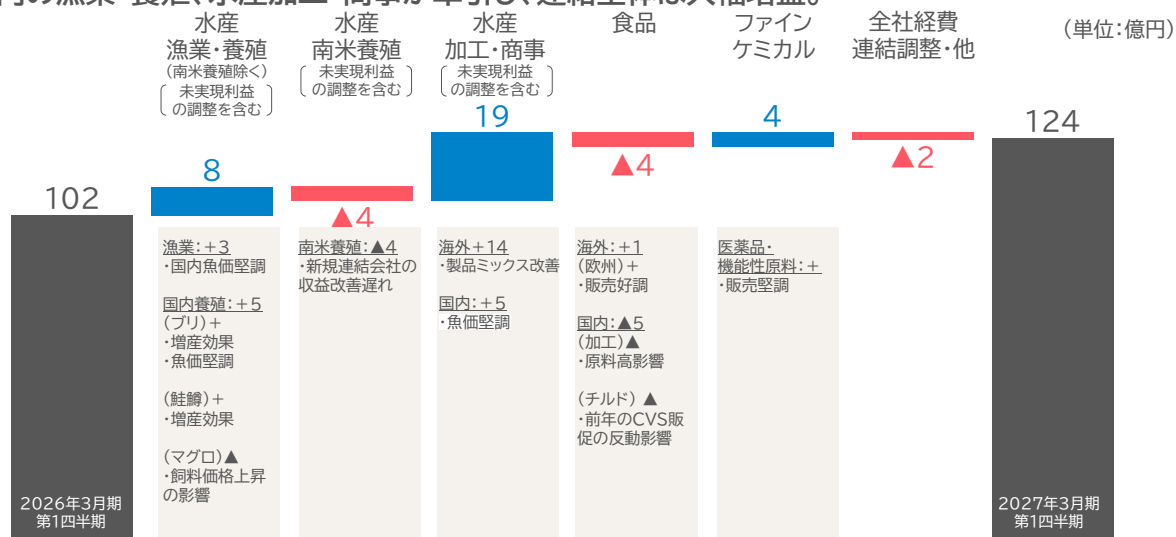
水産事業は、南米養殖会社の新規連結効果に加え、国内外の加工・商事が好調で、大幅な増収増益となりました。食品事業は、欧米の販売が堅調で増収となった一方、原料高や工場増強に伴う償却負担などにより減益となりました。

ファインケミカル事業は、医薬品原料・機能性原料の販売が堅調に推移し、増収増益となりました。

売上高の為替換算影響は全体で約98億円のプラスとなっており、為替影響を除いても増収となっています。

2027年3月期 第1四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

食品の原料高などの影響に加えて、新規連結した南米養殖会社の収益改善遅れがあったものの、国内の漁業・養殖、水産加工・商事が牽引し、連結全体は大幅増益。



営業利益は前年同期比21億円増加しました。

水産事業では、国内の漁業・養殖が8億円、加工・商事が19億円の増益となりました。一方、南米養殖は新規連結子会社の収益改善が途上であり、4億円の減益となりました。

食品事業は原料高や前年のコンビニエンスストア販促の反動などにより4億円の減益となりました。ファインケミカルは4億円の増益、全社経費・連結調整で2億円の減益となっています。

食品・南米養殖のマイナスを、国内の漁業・養殖、水産事業の加工・商事の増益が上回り、連結全体では増益となっています。

2027年3月期 第1四半期 連結貸借対照表(前期末比)

国内外の工場投資や運転資本増に伴う有利子負債の増加もあり、成長投資を優先する中でネットDEレシオは目標レンジ(0.7~0.8)を上回っている。

総資産

7,826億円

前期末比 +331億円

自己資本比率

39.1%

前期末比 ▲1.0 pt

ネットDEレシオ

0.9

前期末比 +0.1

(単位:億円)	2026年 3月期 期末	2027年3月期 第1四半期	増減
資産	7,495	7,826	331
流動資産	3,760	3,994	233
固定資産	3,734	3,831	97
負債	4,395	4,667	271
流動負債	2,764	2,855	91
固定負債	1,631	1,811	179
純資産	3,099	3,159	59
株主資本	2,360	2,380	20

© Nissui All Rights Reserved.

8

総資産は、前期末比331億円増の7,826億円となりました。

主な増加要因は、国内外の工場投資による有形固定資産の増加など戦略的投資に伴う資金需要です。

自己資本比率は39.1%、ネットDEレシオは0.9倍となり、成長投資を優先する中で目標レンジを一時的に上回っています。

今後は、投資先の収益改善と営業キャッシュ・フローの創出を通じて、中期的に目標レンジへの回帰を目指します。

2027年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フロー(前年同期比)

一時的にFCFは悪化するも、運転資本管理や南米養殖会社の早期収益改善による営業CF水準の向上を図る。

(単位:億円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	増減	ポイント
税金等調整前四半期純利益	99	114	14	—
減価償却費(のれん償却※含む)	63	77	14	設備投資の増加に伴い増加
運転資本	▲ 47	▲ 111	▲ 64	・南米養殖会社の取得による長期買掛金返済 ・北米加工食品会社の売上増に伴い売掛金増加
営業CF	28	▲ 53	▲ 81	—
設備投資額(固定資産取得額)	▲ 91	▲ 145	▲ 54	国内外の工場投資による増加
投資CF	▲ 93	▲ 133	▲ 40	—
FCF(フリー・キャッシュ・フロー)	▲ 65	▲ 186	▲ 121	—
短期借入金及びCP増減額	22	196	174	—
長期借入金の増減額	95	157	61	—
財務CF	59	288	228	—
※参考:のれん償却費用	1	2	0	—

© Nissui All Rights Reserved.

9

フリー・キャッシュ・フローはマイナス186億円となりました。

営業キャッシュ・フローは、北米加工食品会社を中心とした売上増に伴う売掛金増加などにより、マイナス53億円となりました。

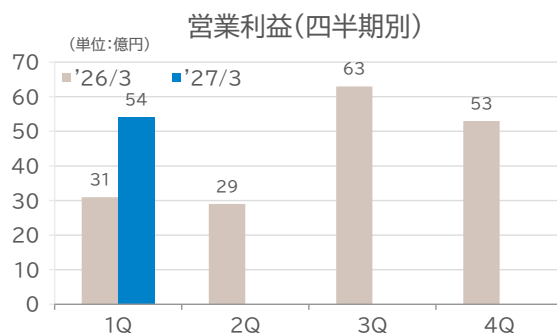
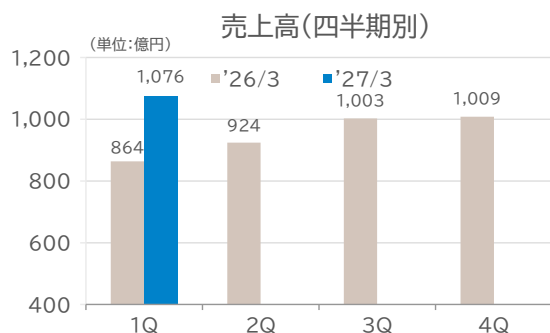
投資キャッシュ・フローは、国内外の工場投資によりマイナス133億円、財務キャッシュ・フローは借入金とコマーシャル・ペーパーの活用により288億円のプラスとなりました。

今後は運転資本管理を徹底するとともに、南米養殖会社を含む投資先の収益改善を進め、営業キャッシュ・フローとフリー・キャッシュ・フローの改善を図ります。

2027年3月期 第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

売上高は南米養殖会社の新規連結効果に加えて、北米商事が好調で増加。営業利益は南米養殖の収益改善遅れの影響があったものの、加工商事や国内の漁業・養殖が牽引し、増加。

(単位:億円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前年 同期比増減	増減率 (%)	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	計画進捗率 (%)
売上高	864	1,076	212	24.6	4,074	26.4
営業利益	31	54	22	72.6	216	25.2

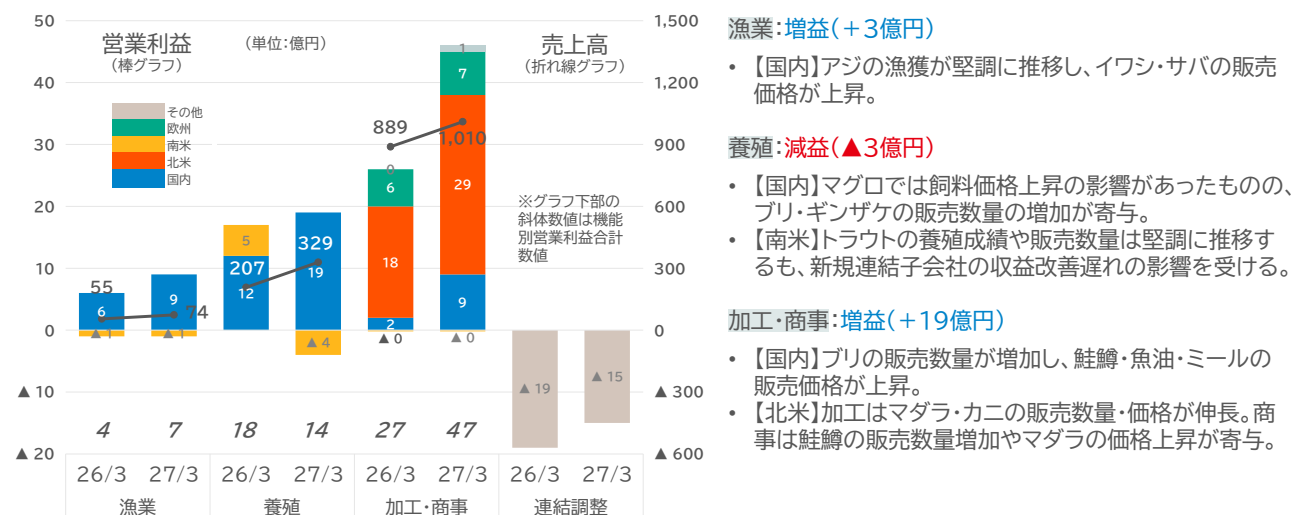


水産事業の売上高は212億円増の1,076億円、営業利益は22億円増の54億円となりました。

売上高は、南米養殖会社の新規連結効果に加え、北米商事を中心とした販売増が寄与しました。

営業利益は、南米養殖の収益改善遅れがあったものの、国内の漁業・養殖と国内外の加工・商事が牽引し、増益となりました。

2027年3月期 第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)



漁業:増益(+3億円)

- ・【国内】アジの漁獲が堅調に推移し、イワシ・サバの販売価格が上昇。

養殖:減益(▲3億円)

- ・【国内】マグロでは飼料価格上昇の影響があったものの、ブリ・ギンザケの販売数量の増加が寄与。
- ・【南米】トラウトの養殖成績や販売数量は堅調に推移するも、新規連結子会社の収益改善遅れの影響を受ける。

加工・商事:増益(+19億円)

- ・【国内】ブリの販売数量が増加し、鮭・魚油・ミールの販売価格が上昇。
- ・【北米】加工はマダラ・カニの販売数量・価格が伸長。商事は鮭の販売数量増加やマダラの価格上昇が寄与。

国内漁業は、アジの漁獲が堅調に推移し、イワシ・サバの販売価格上昇も寄与して、3億円の増益となりました。

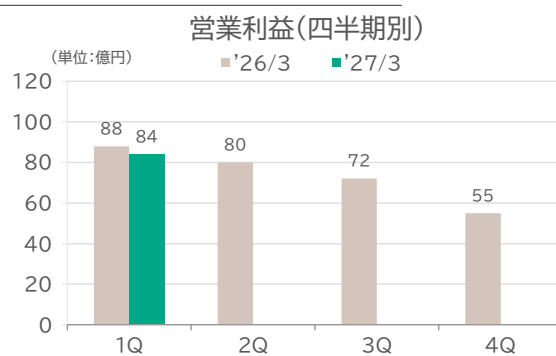
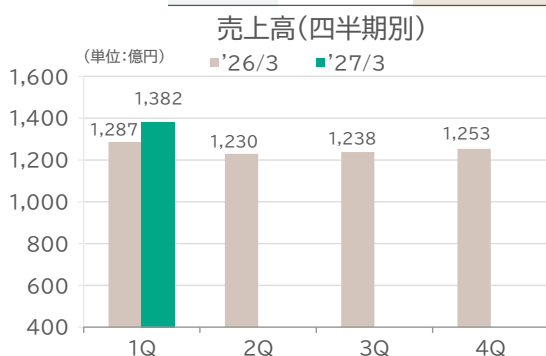
養殖は、国内でブリ・ギンザケの販売数量増加が寄与した一方、南米の新規連結子会社の収益改善が途上にあり、全体では3億円の減益となりました。

加工・商事は、国内ではブリ・鮭・魚油・ミールの販売が好調で、北米ではマダラ・カニ・鮭などの販売が伸長しました。欧州では販売数量が減少したものの、価格と為替の影響により前年並みとなり、全体では19億円の増益となりました。

2027年3月期 第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

売上高は欧米の食品が好調で増加。営業利益は、欧州では増加も国内の苦戦をカバーしきれず、全体では減少。

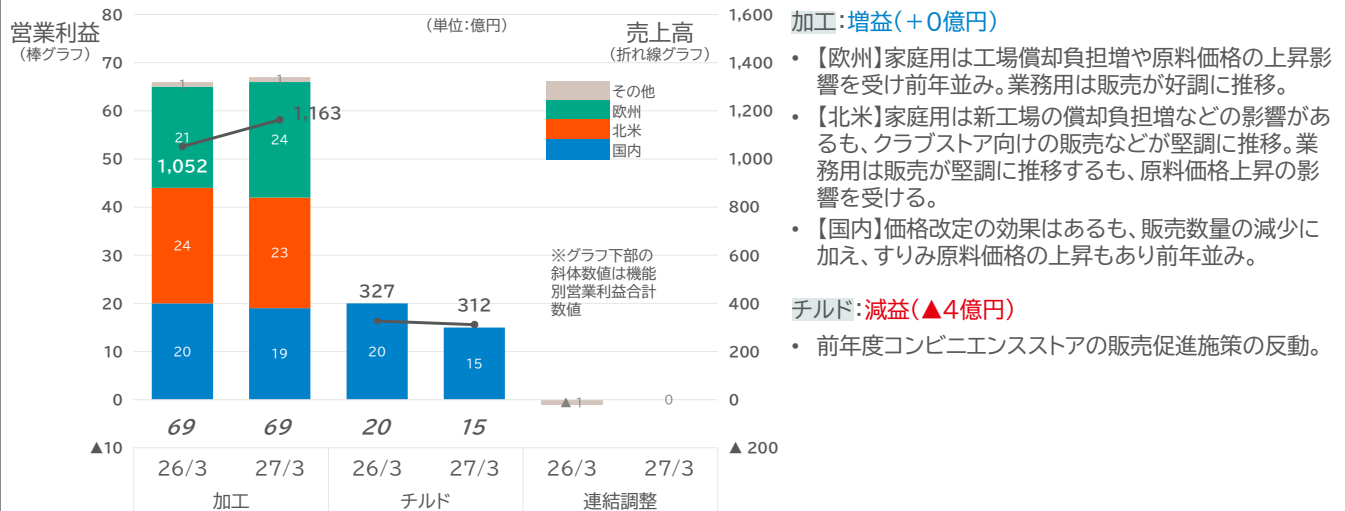
(単位:億円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前年 同期比増減	増減率 (%)	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	計画進捗率 (%)
売上高	1,287	1,382	95	7.4	5,206	26.5
営業利益	88	84	▲3	▲4.1	278	30.4



食品事業の売上高は、欧米の販売増加が寄与し、95億円増の1,382億円となりました。

営業利益は、欧州が増益となった一方、国内の原料高やチルド事業の反動減などを補いきれず、全体で3億円減益の84億円となりました。

2027年3月期 第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)



加工事業は、全体として前年同期並みとなりました。

国内では、価格改定効果があったものの、販売数量の減少とすりみ原料価格上昇の影響を受けました。

北米では、販売が好調だった一方、新工場の償却負担や原料価格上昇が利益を圧迫しました。

欧州では、家庭用で償却負担や原料高の影響があったものの、業務用の調達マネジメントと販売好調により増益となりました。

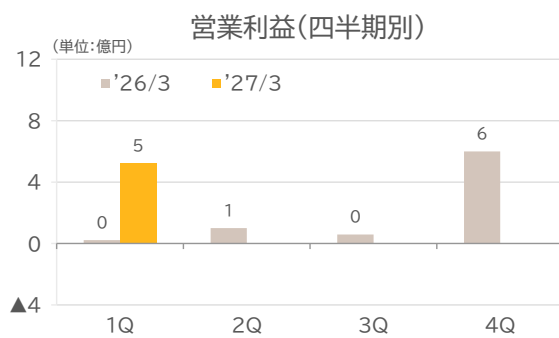
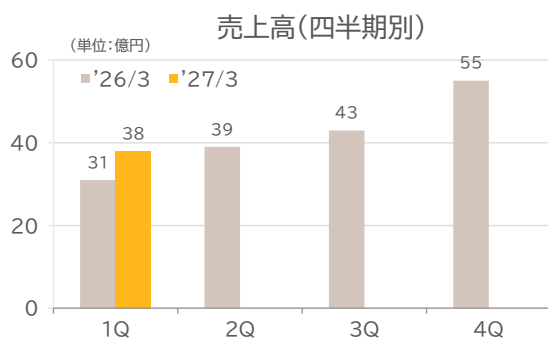
チルド事業では、前年のコンビニエンスストア販促施策の反動により4億円の減益となりました。

今後は価格改定、生産能力増強後の稼働率向上、商品構成の改善により収益回復を図ります。

2027年3月期 第1四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

医薬品原料やサプリメント向け機能性原料の国内販売が堅調に推移するとともに、医薬品原料の増産効果による収益性改善もあり、増収・増益。

(単位:億円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前年 同期比増減	増減率 (%)	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	計画進捗率 (%)
売上高	31	38	7	24.4	174	22.2
営業利益	0	5	5	2,248.5	18	28.3



ファインケミカル事業の売上高は38億円、営業利益は5億円となりました。

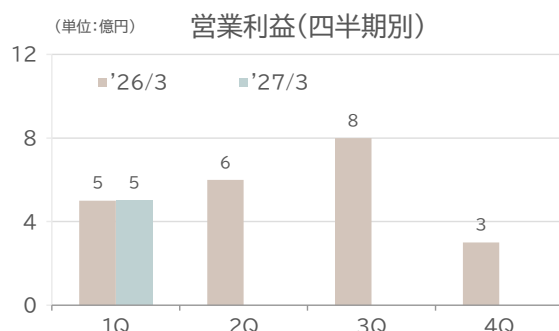
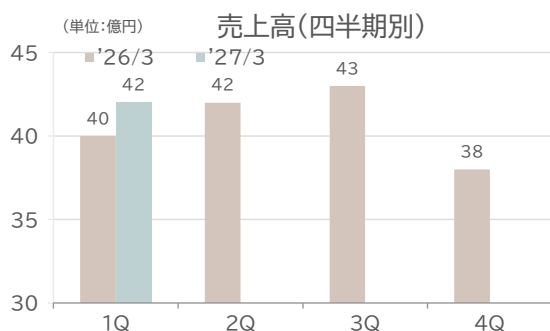
医薬品原料とサプリメント向け機能性原料の国内販売が堅調に推移しました。

また、医薬品原料の増産に伴う工場稼働率の改善も、収益性向上に寄与しています。

2027年3月期 第1四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

人件費の上昇などによるコスト増の影響を受け、横ばい。

(単位:億円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	対前年 同期比増減	増減率 (%)	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	計画進捗率 (%)
売上高	40	42	1	3.4	177	23.8
営業利益	5	5	▲0	▲6.9	26	20.1



物流事業の売上高は42億円、営業利益は5億円となりました。

売上高は前年並み、営業利益は人件費上昇などのコスト増により若干の減益となりました。

今後は荷役、配送効率の改善と適切な料金対応を進め、収益性の維持・改善を図ります。

今後の見通し・取り組み



2027年3月期 通期見通し

売上高は、為替前提の見直し及び水産事業の好調を踏まえ、上方修正。
各段階利益は、前回予想を据え置き。

	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	2027年3月期 修正計画	対期初計画比 増減	増減率 (%)
売上高	9,800 億円	10,000 億円	200 億円	2.0
営業利益	425 億円	425 億円	—	—
経常利益	430 億円	430 億円	—	—
親会社株主に 帰属する当期 純利益	290 億円	290 億円	—	—
為替： 米ドル(USD)	150.00 円	155.00 円		

© Nissui All Rights Reserved.

17

通期の売上高予想は、期初計画の9,800億円から200億円引き上げ、1兆円に上方修正しています。

主な要因は、米ドルの為替前提を150円から155円に見直したことに
加え、水産事業の販売増加です。

営業利益425億円、経常利益430億円、当期純利益290億円は据え置
いています。

売上増加の一部が為替換算や商事取引の増加によるものである一方、
原料・物流・エネルギーコストの上昇や南米養殖の収益改善遅れを織り
込んだため、利益計画は変更していません。

2027年3月期 通期見通し(セグメント別)

営業利益は、期初計画では織り込んでいなかった中東情勢、原料高、南米養殖事業の収益改善遅れの影響があるも国内漁業・海外加工商事でカバー。

	2027年3月期 期初計画 (5月発表)	2027年3月期 修正計画	対期初計画比 増減	増減率 (%)
売上高	9,800	10,000	200	2.0
水産事業	4,074	4,224	150	3.7
食品事業	5,206	5,256	50	1.0
ファインケミカル事業	174	174	-	-
物流事業	177	177	-	-
その他	169	169	-	-
営業利益	425	425	-	-
水産事業	216	219	3	1.4
食品事業	278	275	▲3	▲1.1
ファインケミカル事業	18	18	-	-
物流事業	26	26	-	-
その他	1	1	-	-
全社経費	▲115	▲115	-	-
経常利益	430	430	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	290	290	-	-

© Nissui All Rights Reserved.

18

売上高は、水産事業で150億円、食品事業で50億円、それぞれ上方修正しています。

水産事業では、為替前提の見直し、南米養殖の売上増、海外加工・商事の販売増を見込んでいます。

食品事業では、国内の価格改定効果などを織り込んでいます。

営業利益は、水産事業を3億円上方修正し、食品事業を3億円下方修正しています。

水産事業では、南米養殖の収益改善の遅れを国内漁業・海外加工商事で補い、食品事業では、原料高、中東情勢に伴う資材・物流・エネルギーコスト、為替変動等を織り込んだ結果、営業利益は425億円を維持する計画です。

重点項目：南米養殖事業(Yadran社)

生残率悪化や魚体重減少により期初計画を下回る立ち上がりとなるも、正常化施策を進め、4Q以降の黒字化を目指す。

▶ 期初計画からの変動要因

- 魚病発生による生残率悪化や対応コストが増加。
- 低酸素に起因する給餌制限で成長が停滞し、計画比で魚体重減少。
- SA社飼料への切り替えは進むも、飼料の市況価格上昇の影響を受ける見通し。

効果発現イメージ		26年度 (上期)	26年度 (下期)	27年度 以降	期初計画比 変動要因
正常化	養殖成績の改善				▲生残率悪化 ▲魚体重減少
	オペレーション 内製化				—
	飼料コストの改善				▲魚病対応コスト増加 ▲飼料の市況価格上昇見通し
	数量増加				—
シナジー	漁場ミックス効果				—
	高付加価値化・ 販売エリア拡大				—

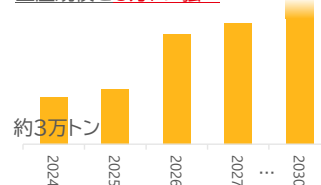
▶ 今後の見通し

- 飼料価格は下期以降上昇が見込まれる一方、魚病影響は年度内には縮小見込み。
- 飼料コスト・養殖成績の改善、オペレーション内製化などの正常化に向けた取り組みにより、4Q以降の黒字化を目指す。
- 淡水養殖場の新設により、種苗供給力を強化。2027年度以降は漁場ミックス効果・増産効果に加えて、高付加価値化・販売エリア拡大などシナジーを最大化。



淡水養殖場
(2026年下期～)

買収会社とのシナジーで
生産規模を8万トン強へ



Yadran社は、魚病の影響による生残率低下や、低酸素に伴う給餌制限による魚体重減少などにより、期初計画をやや下回る立ち上がりとなっています。

一方、水揚げ数量は概ね計画通りで、正常化施策は着実に進んでいます。今後は養殖成績、飼料コストの改善、オペレーションの内製化などを進め、第4四半期以降の黒字化を目指します。

魚病の影響は年度内に縮小する前提ですが、自然・生物要因であるため、引き続き慎重に管理し、影響の最小化に取り組みます。

また、2026年度下期から稼働するSA社の淡水養殖場による種苗供給力の増強や、SA社、Yadran社の漁場・生産・販売面でのシナジーを通じ、中長期的な収益力向上につなげていきます。

今後の取り組み：水産事業

国内養殖の生産能力拡大・生産性向上に加え、加工・商事における高付加価値商品の生産・販売拡大を進め、持続的な成長を実現する。

▶ (国内養殖)種苗強化・生産性向上

(国内サーモン養殖の事例)

課題	取り組み
種苗	・種苗数量の不足 ・高品質の種苗確保 ・種苗生産能力の増強
生産	・魚体重・生残率向上 ・給餌コストの抑制 ・養殖の高度化(AI・IoT活用等) ・自動給餌による給餌最適化



導入予定の
フィードバージ船
(イメージ図)

4,100トン

2025年度
実績

サーモン
10,000トン

2030年度
目標

▶ (加工・商事)高付加価値化

ー北米加工はスケソウダラのフィレ比率向上など高付加価値化施策を推進し、事業収益性の向上を図る。



ー国内商事は、グループ養殖会社の商品や、グループ漁獲品を使用した業務用商品など高付加価値商品の拡充により、収益性の向上を図る。



© Nissui All Rights Reserved.

20

水産事業では、国内養殖の生産能力拡大と生産性向上、加工・商事における高付加価値化を進めます。

国内サーモンの例では、種苗生産能力の増強、AI・IoTを活用した養殖管理、自動給餌やフィードバージ船の導入により、魚体重・生残率の向上と給餌コストの低減を図ります。

生産量は、2025年度の約4,100トンから2030年度に1万トンを目指します。

加工・商事では、北米加工におけるスケソウダラのフィレ比率向上や、国内商事でのグループ養殖魚・漁獲品を活用した高付加価値商品の拡充により、収益性向上を図ります。

今後の取り組み：食品事業

国内新工場の建設、北米新工場と欧州の増設した工場の稼働、価格改定などを着実に推進し中長期的な収益力を強化。

▶ スマートファクトリー化・生産能力増強

ー (国内)新工場では、生産設備の自動化やAI・IoTを活用したスマートファクトリー化を推進。生産効率向上・省人化の実現、供給体制の強化で中長期的な競争力を向上。

(北九州)新工場の建設の様子



遠隔管理
(レトルト殺菌工程)



ー (欧米)生産増強による販売拡大により、償却費や製造コストの増加を吸収。



北米：新設工場
(26年下期：工場本格稼働)



欧州：増設した工場
(26年上期：工場本格稼働)

▶ 価格改定・ニーズ起点の商品展開

ー (国内)価格改定ですりみなど原料コスト上昇分の吸収を図る。個食・簡便・健康ニーズに応える商品を展開。



ー (欧米)白身魚原料の価格上昇に伴い、価格改定を図る。

食品事業では、国内新工場の建設、北米新工場と欧州で増設した工場の稼働、価格改定を着実に進め、中長期的な収益力を強化します。

国内新工場では、設備の自動化やAI・IoTを活用したスマートファクトリー化により、生産効率の向上、省人化、供給体制の強化を図ります。

北米・欧州では、生産能力増強後の販売拡大と稼働率向上を進めます。

また、国内外で原料価格上昇を踏まえた価格改定を進めるとともに、個食・簡便・健康などのニーズに応える商品展開を強化します。

医薬品原料の販売拡大、原料調達の多様化により収益性向上を図る。

▶ (医薬品原料)販売拡大

- ー国内・欧米向け供給を基盤にアジア他など海外市場への販売拡大に合わせ、生産・供給体制を強化。



▶ (機能性原料・食品)商品開発・展開強化

- ーカプセル形態だけでなくゼリー・グミなど食品形態での商品開発を強化し、新しい需要を国内外で創出する。



▶ 原料調達の多様化

- ー(医薬品原料)南米産アンチョビ油や日本産イワシ油だけでなく他エリアのイワシ油の活用を進め、調達安定化。
- ー(機能性原料)新規サプライヤー開拓などDHA原料となるカツオ油の調達を多様化し、調達安定化。

EPA原料

イワシ油の調達エリア拡大



DHA原料

カツオ油の調達エリア拡大



ファインケミカル事業では、医薬品原料の販売拡大、機能性原料・食品の商品開発、原料調達の多様化を進めます。

医薬品原料は、国内・欧米向けを基盤に、アジアなどへの販売拡大に合わせて生産・供給体制を強化します。

機能性食品は、カプセルに加えてゼリー・グミなど食品形態の商品開発を進め、新たな需要を創出します。

また、EPA原料となるイワシ油、DHA原料となるカツオ油について、調達地域とサプライヤーの多様化を進め、安定供給とリスク低減を図ります。



GLOBAL LINKS



バリューチェーン強靱化を通じ、
長期ビジョン
「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
(GOOD FOODS 2030)」
達成に向けて取り組んでまいります。

© Nissui All Rights Reserved.

24

以上の取り組みをグループ全体で推進し、通期計画の達成につなげていきます。

当社は、資源へのアクセス力を強化するとともに、素材の力を最大限に生かした高付加価値の商品を世界中の生活者にお届けすることを目指しています。

バリューチェーンを一層強靱化し、変化の激しい環境下でもレジリエントな事業を構築することで、中長期的な企業価値向上を進めます。

今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況及び製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332

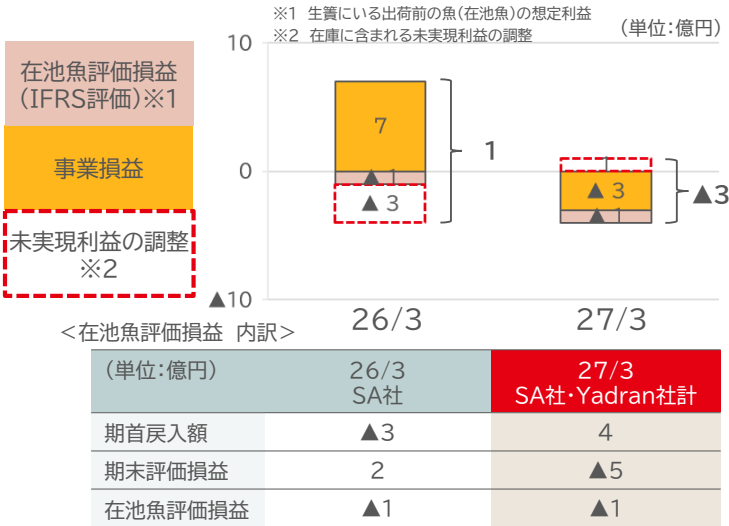
お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

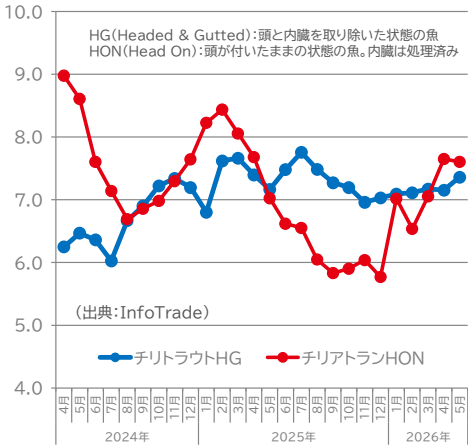
参考資料

2027年3月期 第1四半期 南米鮭鱒養殖について

在池魚評価損益はほぼ影響なし。

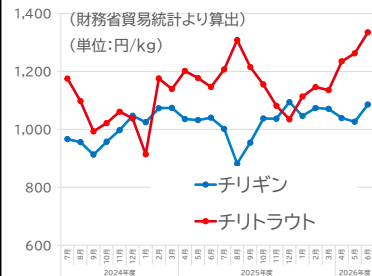


チリ産トラウトHG・アトランHON相場推移
(単位:USD/kg)

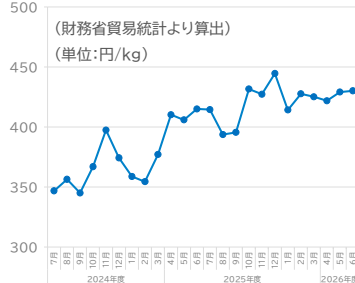


2027年3月期 第1四半期 参考資料

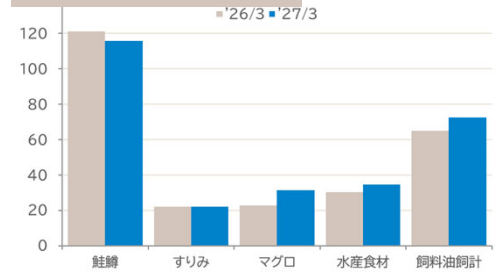
輸入価格推移 鮭鱒



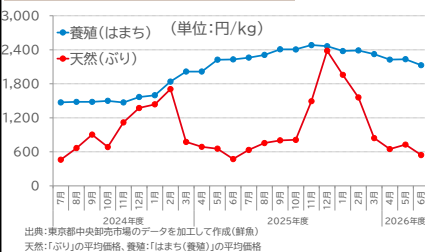
輸入価格推移 冷凍すりみ



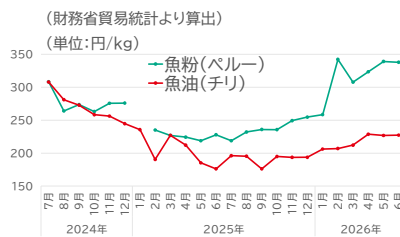
水産個別 主要魚種別売上高 (単位:億円)



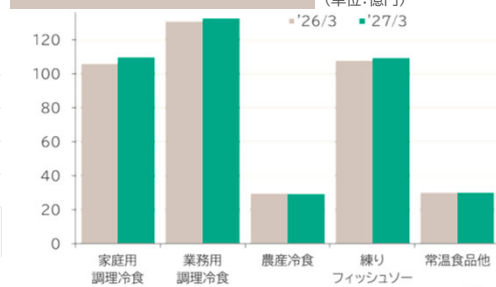
国内水産物市況 プリ



輸入価格推移 魚油・魚粉



食品個別 カテゴリー別売上高 (単位:億円)



2027年3月期 第1四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	増減	主な増減要因
売上高	2,254	2,572	317	
売上総利益	377	425	48	
販売費・一般管理費	274	301	26	
営業利益	102	124	21	
営業外収益	8	18	10	持分法による投資利益+9
営業外費用	8	26	17	支払利息+12
経常利益	102	116	14	
特別利益	0	0	0	
特別損失	3	2	▲0	
税金等調整前四半期純利益	99	114	14	
法人税等	25	28	3	
法人税等調整額	4	5	1	
四半期純利益	70	80	10	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	5	5	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	65	74	9	

2027年3月期 第1四半期 為替換算による影響額(売上高:連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2026年3月期 第1四半期		2027年3月期 第1四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	438	663	559	875	120	212	182	29
EUR(百万ユーロ)	117	187	121	222	3	34	4	29
DKK(百万クローネ)	878	187	863	212	▲14	24	▲3	27
その他通貨	—	105	—	128	—	22	10	11
計		1,144		1,437		293	195	98

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第1四半期の平均

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	変動率
米ドル(USD)	151.21 円	156.45 円	3.5%
ユーロ(EUR)	159.35 円	183.53 円	15.2%
デンマーククローネ (DKK)	21.36 円	24.56 円	15.0%

2027年3月期 第1四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	663 (74)	290 (68)	192 (86)	249 (32)	19 (2)	1,414 (261)	▲338 (▲49)	1,076 (212)
	589	222	106	217	17	1,153	▲289	864
食品事業	790 (▲9)	391 (57)		257 (43)	36 (5)	1,475 (95)	▲93 (0)	1,382 (95)
	799	334		214	31	1,380	▲93	1,287
ファイン 事業	45 (8)					45 (8)	▲6 (0)	38 (7)
	37					37	▲6	31
物流事業	85 (4)					85 (4)	▲43 (▲3)	42 (1)
	81					81	▲40	40
その他 事業	39 (▲13)				0 (0)	39 (▲14)	▲6 (15)	33 (1)
	52				0	53	▲21	31
仮計	1,623 (63)	682 (126)	192 (86)	506 (74)	56 (7)	3,061 (356)		
	1,560	556	106	432	49	2,705		
連結調整	▲273 (▲11)	▲78 (▲2)	▲95 (▲20)	▲4 (▲1)	▲37 (▲6)		▲488 (▲38)	
	▲262	▲76	▲75	▲3	▲31		▲450	
連結 計	1,350 (52)	604 (125)	96 (66)	501 (73)	19 (2)			2,572 (317)
	1,298	479	30	428	17			2,254

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

2027年3月期 第1四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

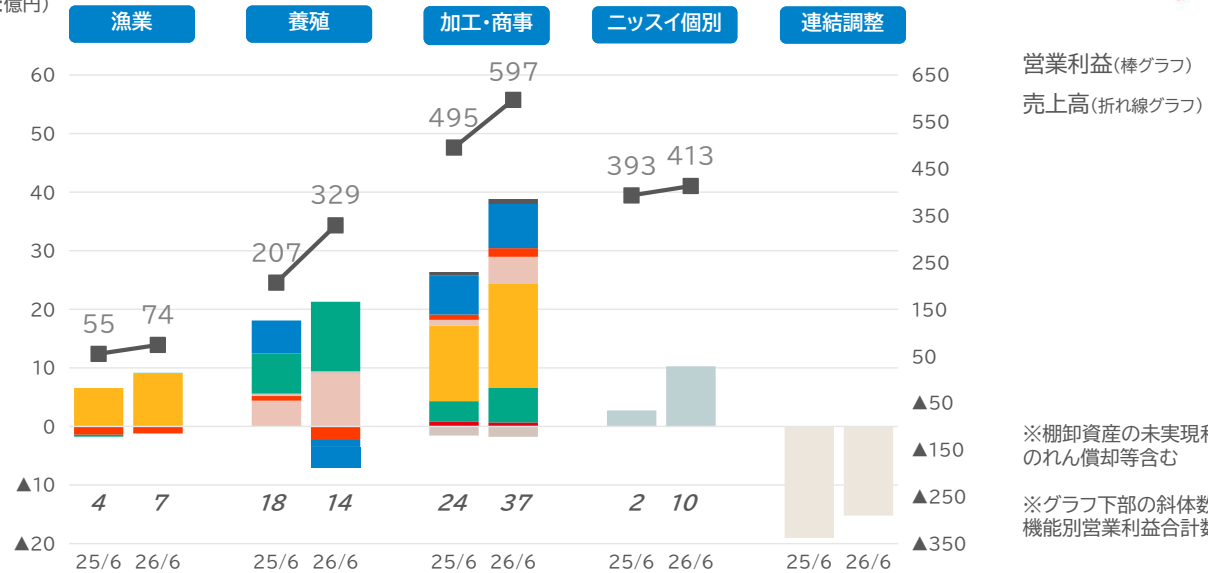
	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	37 (15)	29 (11)	▲6 (▲10)	7 (1)	1 (1)		69 (19)	▲15 (3)	54 (22)	5.0 (1.4)
	21	18	3	6	0		50	▲19	31	3.6
食品事業	35 (▲5)	23 (▲1)		24 (3)	1 (▲0)		85 (▲4)	▲0 (0)	84 (▲3)	6.1 (▲0.7)
	41	24		21	1		89	▲1	88	6.8
ファイン 事業	5 (4)						5 (4)	0 (0)	5 (5)	13.7 (13.0)
	0						0	▲0	0	0.6
物流事業	5 (▲0)						5 (▲0)	0 (0)	5 (▲0)	12.4 (▲1.6)
	5						5	0	5	14.0
その他 事業	0 (▲0)				0 (0)		0 (▲0)	0 (1)	1 (1)	5.2 (3.5)
	1				0		1	▲0	0	1.6
全社経費						▲26 (▲3)	▲26 (▲3)	0 (▲0)	▲26 (▲3)	
						▲23	▲23	0	▲23	
仮計	83 (13)	52 (9)	▲6 (▲10)	32 (4)	3 (1)	▲26 (▲3)	139 (15)			
	70	42	3	27	2	▲23	124			
連結調整	▲6 (▲1)	▲7 (1)	1 (5)	▲1 (▲0)	▲1 (▲0)	0 (0)		▲15 (6)		
	▲5	▲9	▲4	▲1	▲0	0		▲21		
連結 計	77 (12)	44 (11)	▲4 (▲4)	30 (4)	2 (0)	▲26 (▲3)			124 (21)	4.8 (0.3)
	65	33	▲0	26	1	▲23			102	4.6

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

2027年3月期 第1四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

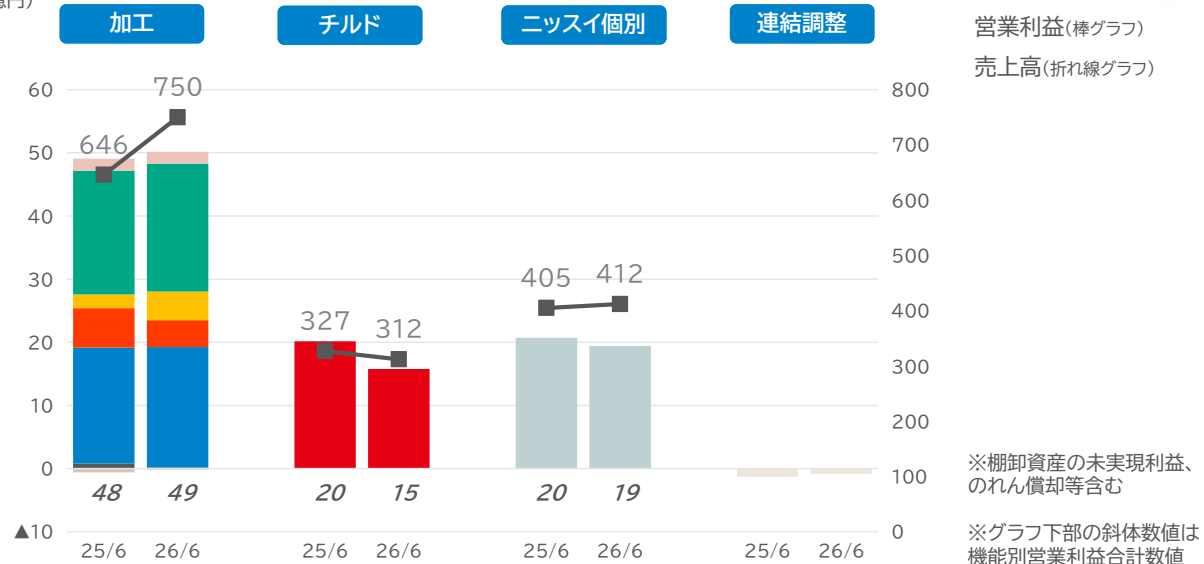


営業利益(棒グラフ)
売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、
のれん償却等含む
※グラフ下部の斜体数値は
機能別営業利益合計数値

2027年3月期 第1四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)





まだ見ぬ、食の力を。

© Nissui All Rights Reserved.